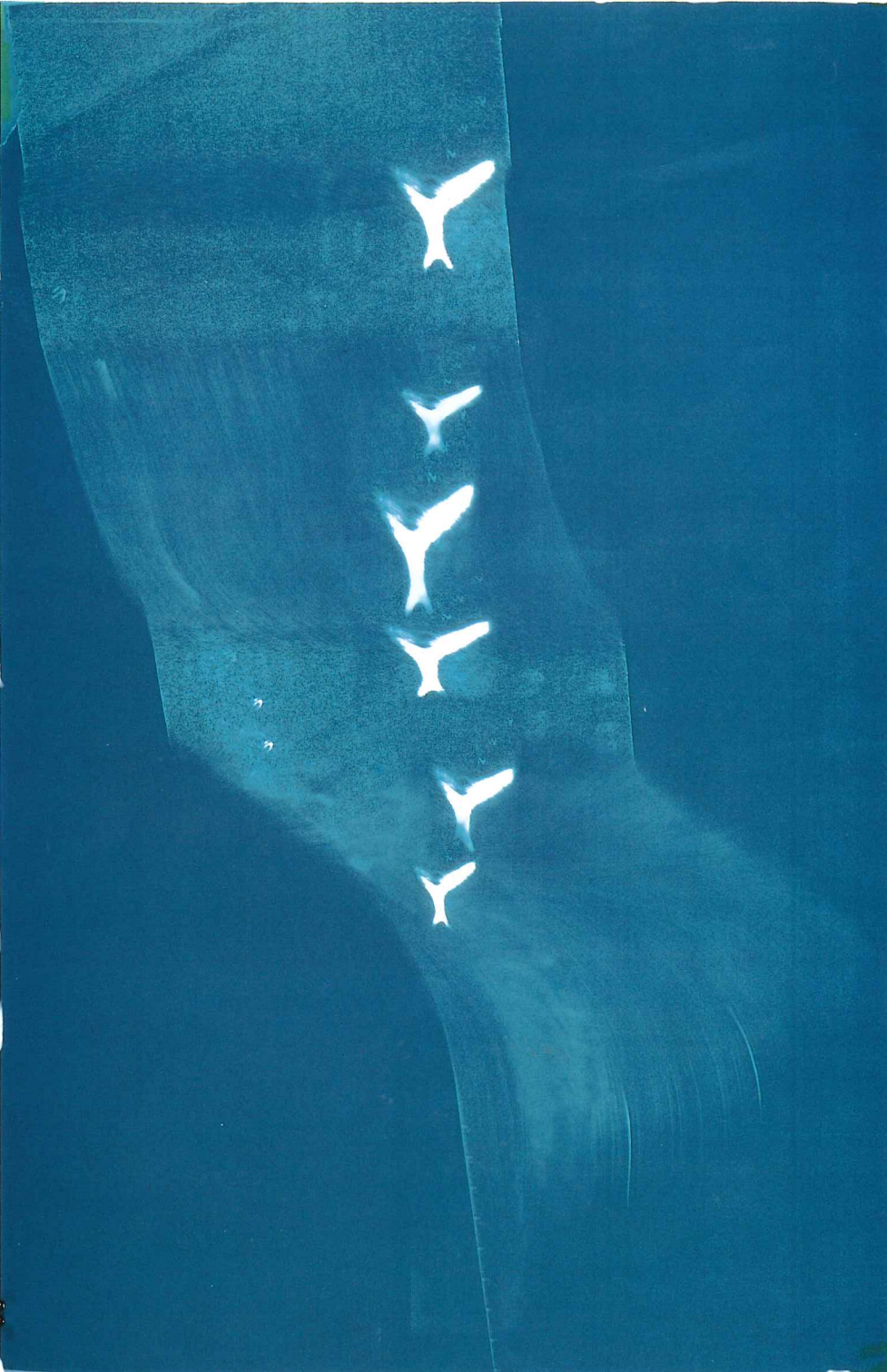


Digital Sight

デジタル表現の可能性



pictured by TERAKADO TAKAYUKI designed by OHTA TAKASHI

1 9 9 1
9 / 14 SAT
10 / 16 WED

主催・会場
(財)品川文化振興事業団 ○美術館

■入館料○一般—500(400)円/高・大生—300(200)円/小・中生—100(50)円:()内は20名以上の団体料金

■ホリエコ・ヒクチャス/木村卓/榊原幹典/小杉+安藤/津田佳紀/寺門孝之/中ザワビデオ/IDEAL COPY/計算流体力学研究所/演算星組團(ハイパーメディア)(TVゲーム)

■9/21(SAT)2:00P.M.-4:00P.M.○シンポジウム'電子イメージの可能性': 開発チエ/寺門孝之/津田佳紀/天野一夫(司会)■10/5(SAT)2:00P.M.-4:00P.M.○対談: 柏木博×室井尚

■協賛(50音順)○アップルコンピュータジャパン/ARTLAB/シャープ/ソニー/聴ハイビジョン普及支援センター/旗フジカラーサービス/富士ゼロックス/ミック・ジャパン/ヤマハ/協力○MeMeX

○美術館

○美術館○山手線大崎駅東口下車徒歩1分 大崎ニューシティ2号館2階 東京都品川区大崎1-6-2大崎ニューシティ2号館 TEL.3495-4040

われわれの環境は、パソコン通信のようなネットワークや、コンピュータ内の高度な仮想現実の世界などの様々な新しいメディアに取りまかれ、その中で周囲の現実世界は仮構的に見え始め、むしろシミュレーション内のイメージに親和し、そちらにリアリティを感じています。

○美術館は、これまで開館以来映像表現に注目してきましたが、今回はこのような状況を前にして、現代美術・CGアートといった領域を解き放ち、システム自身を基本にすえたデジタル的な様々な表現を、Scientific Visualization・TVゲーム・ハイパーメディア等もあわせ展示します。メディア環境の変化に応じて、表現もこれまでの明確で堅固な作家の内部世界と外側の世界という関係を前提にした、従来のイメージ表出のありかたとは異なってきています。また、すでに「作品」とは閉じた世界ではなく、また非物質的なものになっているのです。デジタル的イメージ・思考が深く介在しつつある中で、表現者はシステム自体を表示したり、そのメディアの網目の中で変容し続ける「私」自身を示そうとします。

またかたちや動きの生成や知覚の成り立ちを示した、その不可思議なデジタル的世界はわれわれの知覚を揺すぶり、世界の不思議さをあらためて教えてくれるかもしれません。

今展は、われわれの抱え込んだイメージが、このようなメディア環境の下でどのように変容しているかをうかがおうとするものであり、このようなシミュレーションの中で何が可能なのか、また「作家」はどう関わるのかを問うものであり、そこで生じてくるわれわれの“新しき光景”を同時代的に見つめたいと思います。



ポリゴン・ピクチュアズ「In Search of Muscular Axis」1990

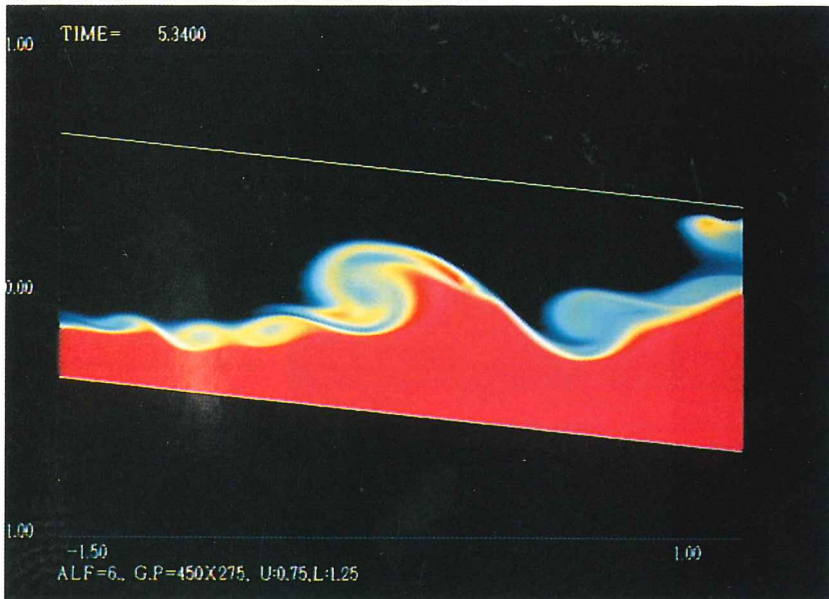


小杉+安藤「FLASHBACH IV・盗まれた身体」1991



「リトル・コンピュータ・ピープル」1985

計算流体力学研究所「密度の違う二流体がまざる時にできる流れ」1987



○美術館のご案内



- 交通
山手線大崎駅(東口)下車徒歩1分
東急バス(大井町駅⇄渋谷駅)大崎駅下車徒歩1分

- 駐車場
美術館専用駐車場はございません。
お車でご来館の場合、「大崎ニューシティ」地下2Fの
駐車場(有料)をご利用下さい。

(財)品川文化振興事業団

○美術館

オ一美術館：山手線大崎駅東口下車徒歩1分
東京都品川区大崎1-6-2 大崎ニューシティ2号館 TEL. 3495-4040